

【砂防課所管 事後評価審議資料】

○事後評価対象箇所一覧表	・・・p. 1
○事後評価実施箇所表	・・・p. 2
○説明資料（パワーポイント）	
1) 通常砂防事業 「岡前谷」	・・・p. 4

令和7年度 事後評価実施箇所一覧表 2月4日審議箇所

番号	担当課名	県事業		事業採択年度	完了年度	全体事業費 (百万円)	事業名	路線・地区・河川名等	実施箇所 (市町村名)	対応方針(案)		
		補助・ 交付金	県単							今後の事後評価の 必要性	改善措置の必要性	新規事業へ適用すべき留意点
1	砂防課	○		H20	R2	339	通常砂防事業	岡前谷	飛騨市	今の段階では 必要なし	今の段階では 必要なし	・事業実施後も絶対安全ではないため、 十分な事業説明を実施し、防災意識の醸 成を図る。 ・事業着手前に地域の要望を十分に聞き 取る。本事業で対応できない要望(計画 外の流路整備等)について、地域や市町 村との調整を図る。
						714						

# 令和7年度事後評価箇所表

担当課（砂防課）

番 号	3	事業名 (路線・河川名等)	通常砂防事業 岡前谷
事業実施箇所	飛騨市古川町袈裟丸		全体事業費 (当初339百万円) 714百万円
採択年度	平成20年度	完了年度	令和2年度
事後評価の実施基準	全体事業費5億円以上で、事業完了後概ね5年経過したもの		
事業目的	<p>岡前谷の流域内には、溪岸侵食等に伴う不安定土砂や、積雪・風による倒木が至る所で確認できる。これらは、集中豪雨等により土石流・流木となって流出し、谷付近の集落や交通網に甚大な被害を及ぼすおそれがあり、保全対象は土砂災害特別警戒区域及び土砂災害警戒区域に指定されている。そのため、砂防施設を整備し、土石流・流木被害の防止を図る。</p>		
事業概要	<p>部分透過型砂防堰堤 (H=10.5m、L=143.5m) 付替林道 (L=620m)</p>		
概要図	<p>The summary diagrams consist of three parts:         <ul style="list-style-type: none"> <li><b>事業位置図 (Project Location Map):</b> Shows the project site (red circle) near the Sekigawara River, with labels for '至河合' (to Kawaguchi), '至神岡' (to Kamigata), '飛騨細江駅' (Hie Station), '国道41号' (National Route 41), 'JR高山本線' (JR Tōyama Main Line), '一級河川 宮川' (Class 1 River Miyakawa), and '古川土木事務所' (Kawakawa Civil Engineering Office). Directional arrows point to '至飛騨清見インター' (to Hie Kiyomi Interchange) and '至高山' (to Takayama).</li> <li><b>事業平面図 (Project Plan View):</b> A topographic map showing the '部分透過型砂防堰堤 (H=10.5m、L=143.5m)' in red and the '付替林道 (L=620m)' in green.</li> <li><b>事業側面図 (Project Side View):</b> A cross-section diagram showing the '部分透過型砂防堰堤 (H=10.5m、L=143.5m)' with a height of H=10.5m and the '付替林道 (L=620m)' below it.</li> </ul> </p>		

<p><b>評価結果</b></p>	
<p><b>①住民参加・協働による効果</b></p>	
<p>■住民参加・協働に向けた取り組み及び効果</p> <p>○住民説明会の開催 事業説明会や土砂災害警戒区域指定に関する説明会を実施</p> <p>【効果】 事業中・事業完了後の防災意識の醸成に寄与した。 ⇒地域主導による毎年の避難訓練、防災備品の常備・備蓄の取り組みが確認された。</p> <p>○附帯取水施設の設計に住民意見を反映 住民意見を反映し、維持管理を考慮した取水施設の設計を実施</p> <p>【効果】 施設の維持管理に関する協力を得られた。 ⇒地域住民による取水施設の定期的な草刈り・土砂撤去の活動が確認された。</p>	
<p><b>②事業効果</b></p>	
<p>■土砂災害特別警戒区域の解消 ・砂防堰堤により約2万6千立方メートルの土砂捕捉が可能 ・人家27戸と避難所の土砂災害特別警戒区域が解消</p> <p>■費用対効果分析 ・投資的効果率：2.47</p>	
<p><b>③環境面への配慮</b></p>	
<p>■法面緑化 堰堤袖部盛土法面及び林道法面への植生工の実施による植生の定着 アンケート調査にて、8割以上の方が環境面への配慮について「配慮・どちらかと言えば配慮」と回答 ⇒環境面への配慮は概ね評価していただいた。</p>	
<p><b>④事業を巡る社会経済情勢等の変化</b></p>	
<p>■保全対象の推移 当該土砂災害警戒区域内で社会情勢の大きな変化なし</p> <p>■飛騨市人口推移 事業開始前から継続する飛騨市人口の減少傾向</p> <p>■公共施設の変化 県道古川清見線（平岩工区）開通による高速道路アクセス性向上</p>	
<p><b>⑤利用者・地域住民等への効果</b></p>	
<p>・利用者・地域住民等への効果は、アンケート調査により検証 ⇒【不安が減ったか】：「減った」「どちらかと言えば減った」と回答した割合86% 【本事業の満足度】：「満足」「どちらかと言えば満足」と回答した割合87%</p>	
<p><b>⑥対応方針(案)</b></p>	
<p>■今後の事後評価の必要性 現段階では今後の事後評価の必要性なし</p> <p>■改善措置の必要性 現段階では改善措置の必要性なし</p> <p>■新規事業への適用すべき留意点 ・事業実施後も絶対安全ではないため、十分な事業説明を実施し、防災意識の醸成を図る。 ・事業着手前に地域の要望を十分に聞き取る。本事業で対応できない要望（計画外の流路整備等）について、地域や市町村との調整を図る。</p>	

# 令和7年度事後評価 通常砂防事業 岡前谷



岡前谷砂防堰堤

岐阜県 県土整備部 砂防課



# 事業概要(1)

- 保全対象：人家28戸、岡前公民館(避難所)、県道鼠餅古川線、JR高山本線
- 事業内容：部分透過型砂防堰堤 (H=10.5m, L=143.5m)、付替林道 (L=620m)
- 総事業費：714百万円 (H20~R2)



溪岸侵食等に伴う不安定土砂



積雪・風による倒木



事業地周辺の状況

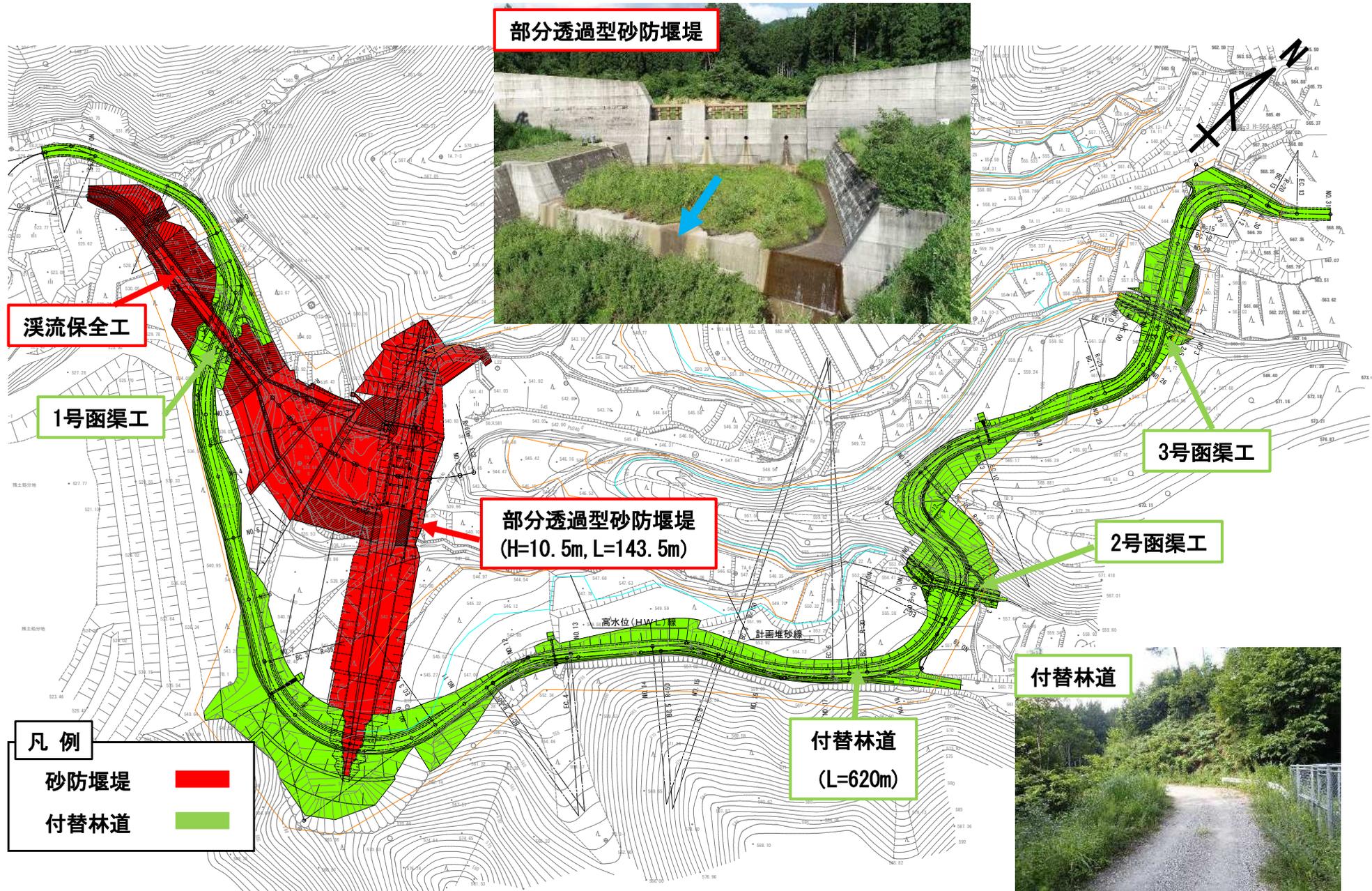
- 集中豪雨等により  
土石流・流木となって流出
- 保全対象は土砂災害特別警戒区域  
及び土砂災害警戒区域に指定



砂防施設を整備

土石流・流木被害の防止を図る

# 事業概要 (2)



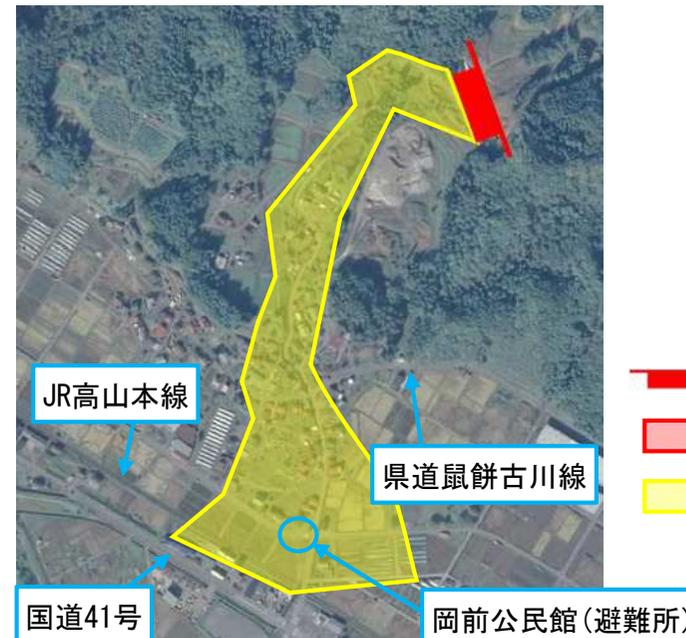
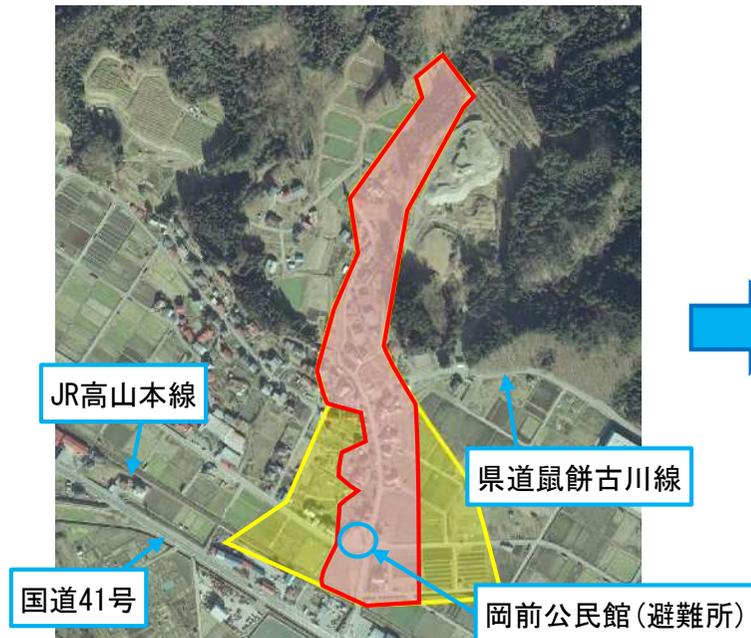
# 事業の効果（1）



施設効果量：25,787m<sup>3</sup>

## ■ 土砂災害特別警戒区域の解消

人家27戸と避難所の土砂災害特別警戒区域が解消



- 砂防堰堤
- 土砂災害特別警戒区域
- 土砂災害警戒区域

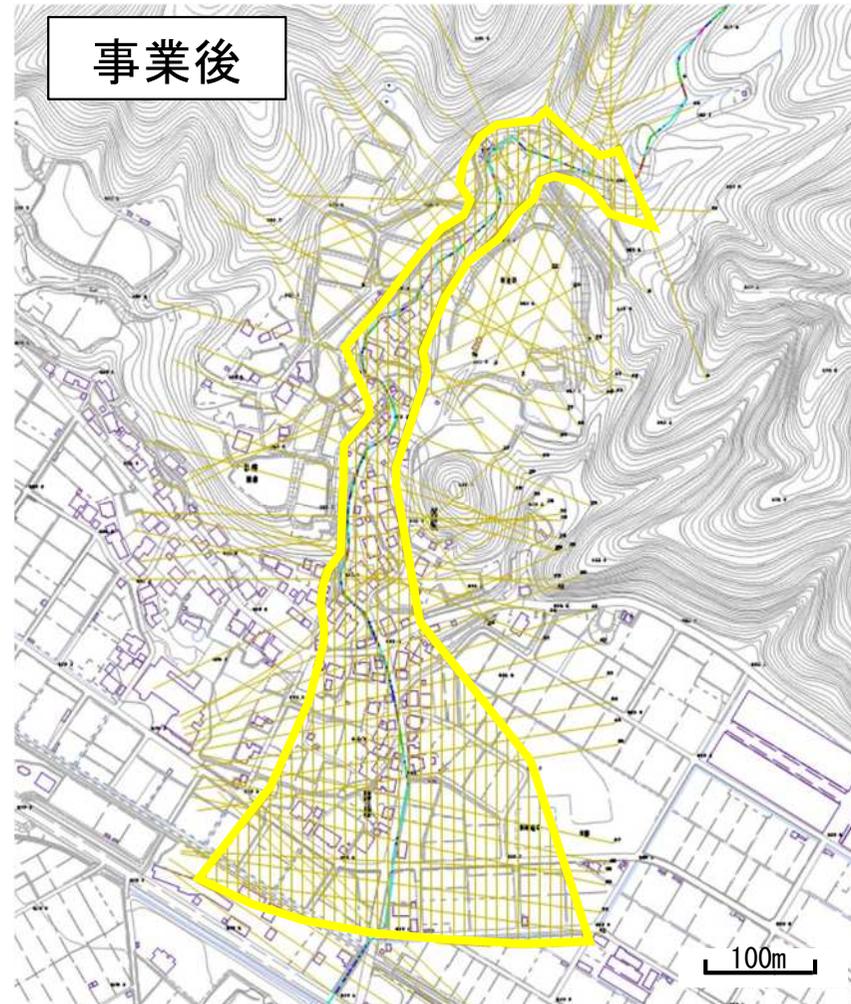
出典：国土地理院 地図・空中写真閲覧サービス  
<https://service.gsi.go.jp/map-photos/app/map?search=photo>

出典：国土地理院 地理院地図  
<https://maps.gsi.go.jp/>

# 事業の効果（2）

## ■土砂災害警戒区域等の公表状況

岡前谷は堰堤整備により土砂災害特別警戒区域（レッドゾーン）が解消となった



土砂災害警戒区域等の指定の公示に係る図書に加筆

飛騨市が作成するハザードマップは令和8年度に更新される予定

# 事業の効果（3）

## ■事業の効果

直接被害の抑止効果： 効果全体の36%

直接被害の主な項目：家屋、道路、公民館等の損壊

間接被害の抑止効果： 効果全体の64%

間接被害の主な項目：人的被害（精神的被害）

市道交通確保のための応急対策費用等

## ■投資的效果率

$$\text{事後評価：} \frac{\text{総便益(3,877百万円)}}{\text{総費用(1,572百万円)}} = 2.47$$

※土石流対策事業の費用便益分析マニュアル（案）

（令和3年1月（令和6年4月 一部改定） 国土交通省）に基づき算出

# 住民参加・協働による効果

## ■住民参加・協働に向けた取り組み及び効果

### ○住民説明会の開催

事業説明会や土砂災害警戒区域指定に関する説明会を実施

### ◎効果

事業中・事業完了後の防災意識の醸成に寄与した。

⇒地域主導による毎年の避難訓練、防災備品の常備・備蓄の取り組みが確認された。



土砂災害警戒区域の指定に伴う地元説明会

### ○附帯取水施設の設計に住民意見を反映

住民意見を反映し、維持管理を考慮した取水施設の設計を実施

### ◎効果

施設の維持管理に関する協力を得られた。

⇒地域住民による取水施設の定期的な草刈り・土砂撤去の活動が確認された。



草刈り後の取水施設の状況（2025年8月）

# 環境面への配慮

施工直後（平成29年）



堰堤袖部  
法面

植生工の  
実施



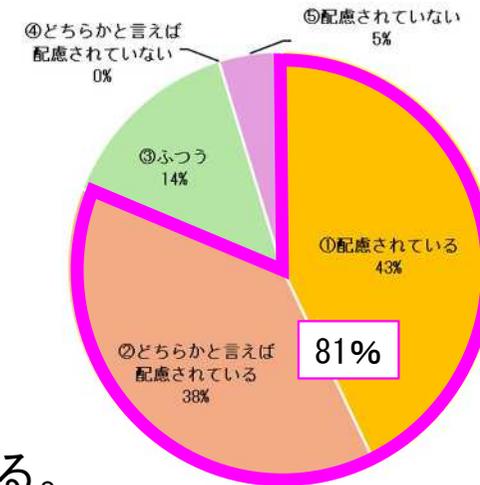
現在の状況（令和7年）



植生の定着

アンケート調査にて、  
8割以上の方が環境面への配慮について  
「配慮・どちらかと言えば配慮」と回答  
⇒地域住民の方々に概ね評価していただいた。

「配慮されていない」の回答理由  
⇒植生工をしなくても、自然に緑化されると思われる。



アンケート調査結果

【環境面への配慮の評価 回答数23】

# 事業を巡る社会経済情勢等の変化

## ■土砂災害警戒区域内の人家戸数の推移

平成20年(着手時) : 人家28戸 → 令和2年(完了時) : 人家28戸

⇒当該土砂災害警戒区域内で社会情勢の変化なし

## ■飛騨市人口推移(国勢調査)

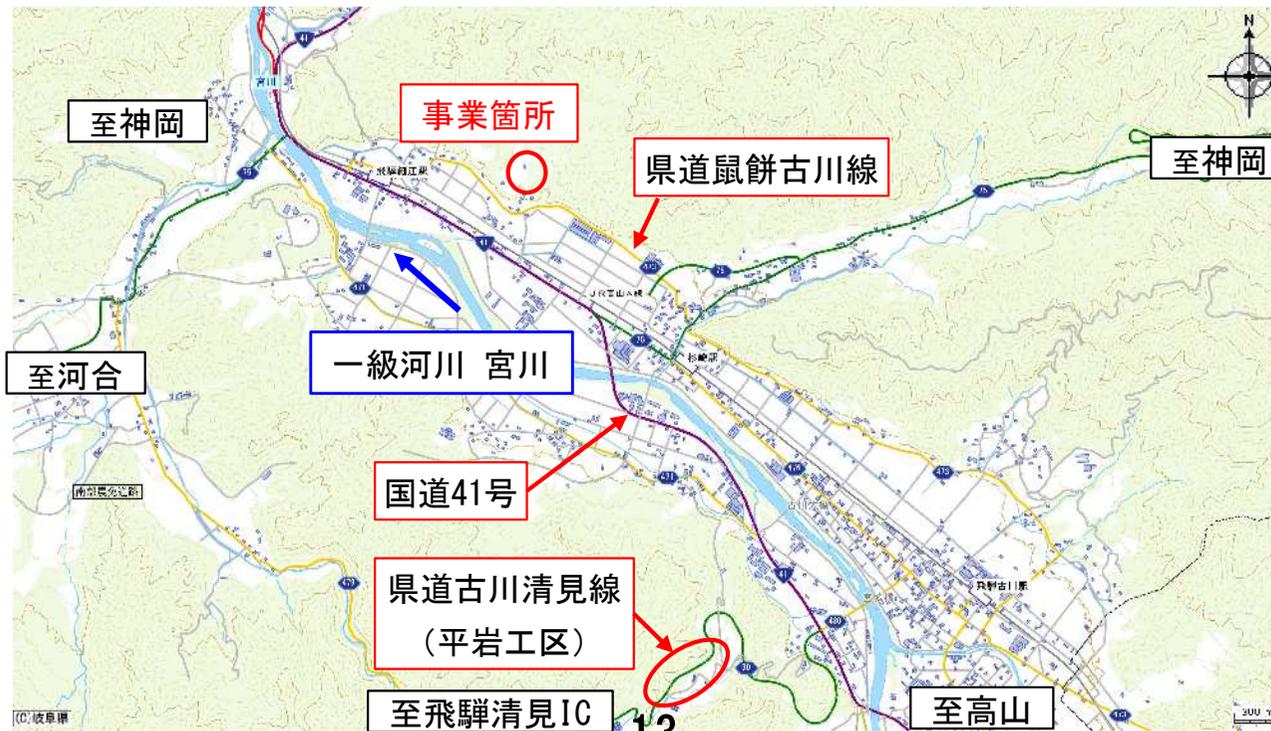
平成22年 : 26,732人 → 令和2年 : 22,538人 (△4,194人)

⇒事業開始前から継続する飛騨市人口の減少傾向

## ■公共施設の変化

平成29年度 : 県道古川清見線(平岩工区) 開通

⇒市内から高速道路へのアクセス性向上



出典 : 県域統合型GISぎふ  
<https://gis-gifu.jp/>

# 利用者・地域住民等への効果（1）

地域住民等への効果をアンケート調査により検証した。

事業概要や効果を説明した資料を、アンケートとあわせて対象世帯へ送付した。

## 【アンケート調査地区】

当該土砂災害警戒区域内

対象世帯数：29

回収世帯数：23

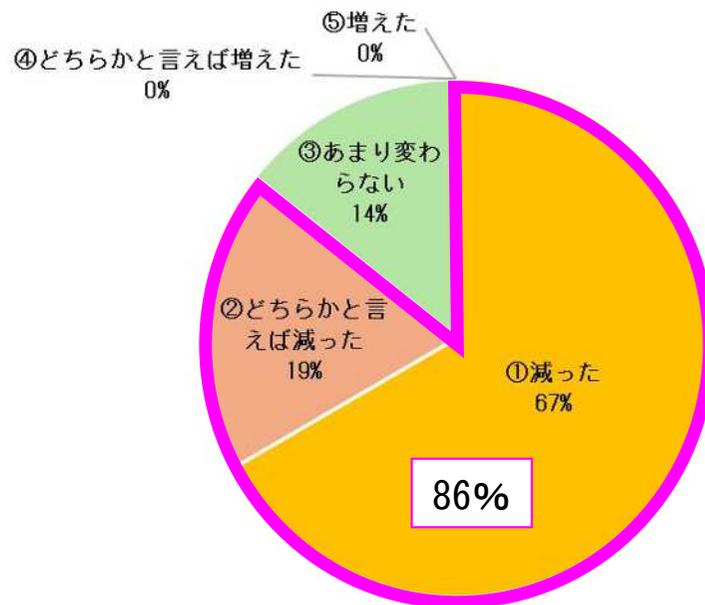
回収率：79%

※砂防事業の保全対象である

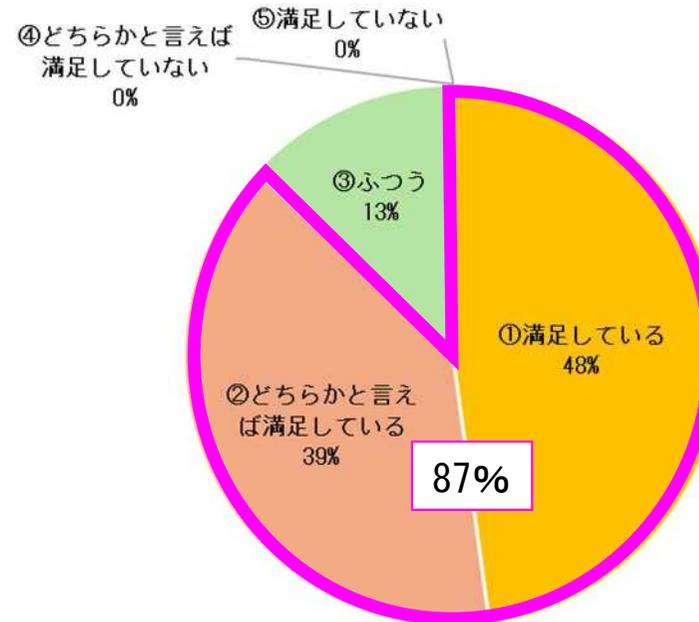
人家及び事業所を対象とした。

## 【アンケート調査結果】

### 【不安は減ったか】



### 【本事業の満足度】



回答者の8割以上が事業に対して満足している・どちらかという満足していると回答

# 利用者・地域住民等への効果（２）

## 【事業に対する地域住民の意見や要望】

### 主な意見

- ・ 近くに国の遺跡もあり、土砂災害特別警戒区域が解消されたことはありがたい。
- ・ 特別警戒区域が解消されたことで、この場所を離れる人が少なくなるのでは。
- ・ 気候変動が進んでいるため、今後ますます砂防ダムが必要不可欠になる。
- ・ 計画時と現在では気候が変わってきているため、今後どうなるか不安。

### 事業に対する要望

- ・ 下流の流路の整備を検討してほしい。

# 対 応 方 針 (案)

## ■ 今後の事後評価の必要性

- ・ 土砂災害特別警戒区域の解消、植生の回復など事業の効果を確認  
⇒現段階では今後の事後評価の必要性なし

## ■ 改善措置の必要性

- ・ 現段階では改善措置の必要性なし

## ■ 新規事業への適用すべき留意点

- ・ 事業実施したとしても絶対の安全はないため、十分な事業説明をするとともに、地域の防災意識の醸成を図る。
- ・ 事業着手前に地域の要望を十分に聞き取り、本事業で対応できない要望（計画外の流路整備等）について、地域や市町村との調整を図る。